カクケイ株式会社

技術を生かし製品に付加価値と遊び心を

〈2018年5月21日号 1面〉

準大賞
2019週刊愛媛経済レポート賞

カクケイ

遊び心満載の食べられるシート

食材に貼るだけで手軽に“デコ飯”、楽しい食事を演出

カクケイ㈱（四国中央市三島宮川、井原博史社長）は、イラスト付きの可食シートを開発した。デンプン由来のフィルムに食用インクで絵柄を印刷したもので、食材に貼って使用。簡単に料理をデコレーションでき、食事の場を楽しく演出する際の活用を想定する。量産体制を整え、スーパー・雑貨店などに提案。売上は初年度2億円を目指す。

同社は1923年創業。封筒や包装紙、ラベルなどの製造・販売を手掛ける。

近年、楽しく食事をするためにキャラ弁やデコ飯と呼ばれる、アニメキャラクターや動物など食材にデザインした料理が注目されている。

同社は5年前から、バレンタイン商品や食品用資材といった食品分野へ参入しており、同分野での新たな事業を構想。自社の持つ印刷技術が生かせる新製品「たべられるアート」を開発した。

デンプン由来のフィルムに食用インクで絵柄を印刷。デザインは現在18種類で、顔や動物、乗り物、メッセージなどのオリジナルのほか、人気キャラクターも用意した。一つのシート（12×14センチメートル）に16～34個の絵柄が印刷されており、ハサミで切り食材に貼り付ける。価格は1枚400円（税別）ほか。

同社によると、イラスト付きの可食シートの量産化は事例がないため、オリジナルの印刷機と高速印刷に耐えられるシートを開発。包装機も導入し、月間10万～20万枚製造できる体制を構築する。フィルムメーカーと共同でコストダウンと品質向上のため研究を続け、「1年以内には販売価格を半分にしたい」（井原社長）考え。

大手雑貨店で試験販売をしたところ、「上々の評価を得た」（同）という。また、東京で行われた食品関連の展示会でも引き合いが多数あり、大手スーパーでの取り扱いが決定している。

販売は子会社のフロンティア㈱（同社長）が行う。売上目標は初年度2億円。まずはスーパーや雑貨店などに提案するが、外食チェーンのほか、OEMの受託も検討する。6月の発売を目指す。

売上目標は2億円

選考ポイント

近年、食事の場を楽しく演出する人が増加する中、自社の印刷技術が生かせる事業としてイラスト付きの可食シートを開発した。他社に先駆け量産化体制を構築するため、シートだけでなく製造設備も新たに整えた。シートは手軽さが受け全国に取引先が増えている。

〈会社概要〉

代表者：井原 博史
所在地：四国中央市三島宮川4-9-53
資本金：6,500万円
創業：1923年1月
事業内容：紙製品製造及びOPPフィルム印刷・製袋